

【学 年】 特別支援学級

【教科・単元名など】

生活単元・図画工作科・国語科 「どうぶつえんにいこう」

【実践内容】

<指導者の願い>

- 1 生活単元「どうぶつえんにいこう」という大きな流れの中で他教科と関連させ楽しく学習させたい。
- 2 一人一人に合ったコミュニケーションの取り方を獲得して欲しい。
コミュニケーションを楽しんでほしい。
- 3 言葉の獲得。「詳しくする言葉」「様子を表す言葉」

<学習の内容>

1 について

他教科との合科 ・ 図画工作科（動物づくり） ・ 国語科（ようすをあらわすことば）
・ 算数科（おかしをかおう）

算数科については、行くための準備 10 円玉 10 個で買い物をする活動。

図画工作科については、見てきたお気に入りの動物を制作。ビデオで確認しながら制作。

キリン（長い脚・長い首・色（黄色だと思い込んでいた。）・網目模様（みかんの袋）
大きな目・しっぽが付いている。）

シマウマ（白と黒・縦縞？横縞？・場所によって向きが違う。）

ペンギン（足が短い・翼の形・白と黒の場所・嘴・目の位置）

校内を回って材料集めて組み立てる。色を付ける。タイトルをつける。

※何度もビデオを見て確かめる。

縦縞・横縞 ・ 茶色・長い・短い・網目模様・ふわふわ

つるつるなどの言葉と対応させながら

2 について

言葉で、動作で、カードを使ってなど 繰り返し活動をする
ことで、新しいコミュニケーションの方法を獲得する。

3 について

実際に触ってみる。触って言葉に置き換える。

クイズを取り入れながら繰り返し行った。

<成功体験をさせるために>

一人一人の力を活かせるように・・・。（分かる。楽しい。と思える
ことが、知的好奇心を喚起し、集中して取り組むことができる。）

- ・ 電子黒板の活用・話し合いの時の、シルエットカード、色カード、模様カード等
- ・ 個性を配慮したグループ作り、順番決め。
- ・ 一人一人が授業で活躍できたという思いが持てる授業展開、場の工夫
- ・ パズルの用意（完成することにより、成就感がもてる。）



【反省】

「動物は好き。でも、どの動物がどんな名前なのか知らない。絵本やテレビでは見るけど本物を間近で見たことがない。触ったことがない。だったら動物園へ行こう。」というのがこの学習の始まりである。この単元を設定することで、工夫しだいで色々なことが学習できた。今回は、「コミュニケーションをとることは楽しい。」と感じて欲しいということが一番の目標であったが、そのために素地として「ことば」獲得させることがあった。集中力が十分でない子どもたちが、楽しく興味を持って学習をしていくか方法を考えた。ゲームやクイズを取り入れたり、制作活動を取り入れたりした。

ゲームやクイズを取り入れたことにより、興味関心を持たせることができた。また、初めての発見や、今まで思い込んできたことが違っていったことへの驚きが知的好奇心を喚起したのではないかと思う。

この子たちにとって、やった・できたという成功体験は大きな力になると改めて感じる事ができた。この気持ちが、知的好奇心の支えになるのではと思う。一人一人の見取りをし、適切な支援をしていきたい。